

# 秋田の土地改良

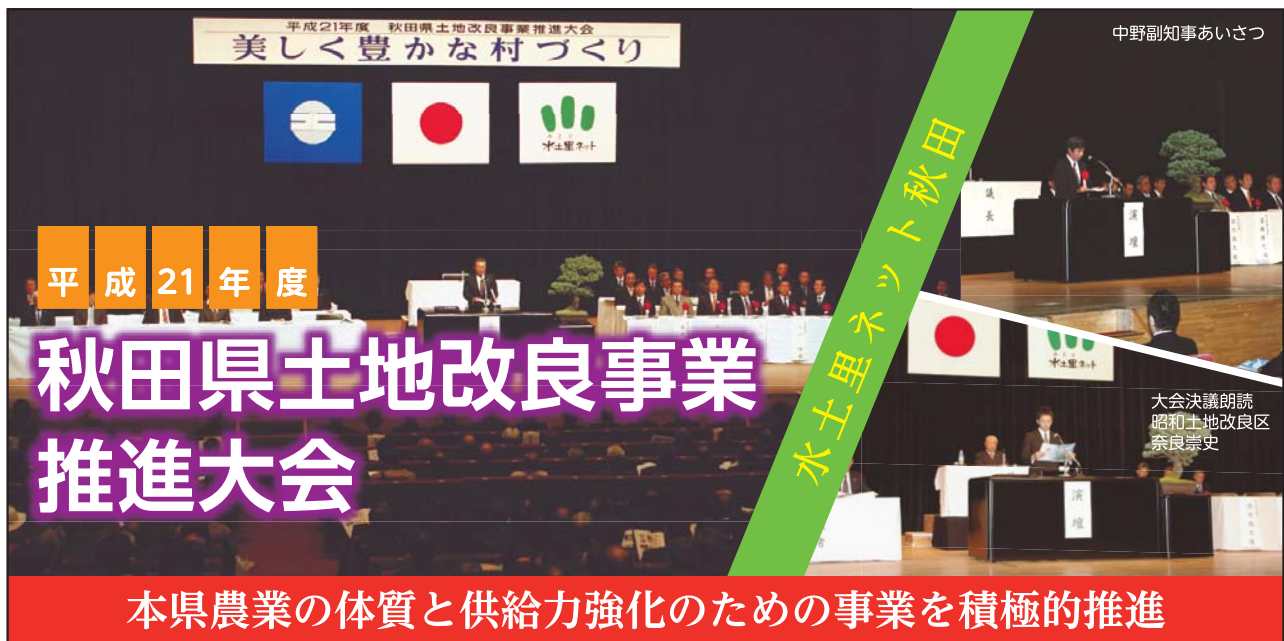
# 12

2009・DEC



みどり  
水土里ネット秋田

目次	平成21年度土地改良事業推進大会……………	2	平成21年度土地改良関係団体役員講習会を開催…………	12
	第32回全国土地改良大会島根大会……………	6	平成21年度秋田県農村総合整備センター幹事会、運営委員会を開催…	13
	「水土里の集い」を開催……………	6	県、県議会への要請活動……………	13
	農村地域環境保全対策事例発表会を開催……………	7	インフォメーション……………	14
	吉田沢ため池で「ため池災害訓練」実施……………	10	連合会日誌……………	14
	平成21年度農業農村整備技術強化対策事業		農業農村整備フェアを開催……………	15
	団体営事業支援研修(施工技術研修)……………	10	「疏水のある風景」写真コンテスト2009……………	16



11月2日(月)、第132回秋田県種苗交換会の協賛行事として本会主催の「平成21年度秋田県土地改良事業推進大会」が秋田市文化会館(秋田市)で開催され、農地・水・環境保全向上対策や耕作放棄地の解消に積極的に取り組んでいくことを決めた。

大会には中野副知事を始め、富樫県会議長、穂積秋田市長、金田勝年衆議院議員など多数の来賓を迎え、県内各地の土地改良関係者ら約1,200名が参加。高貝会長が「今年の夏の豪雨・長雨で農作物の生育が心配されたが、どうにか無事収穫の秋を迎え安堵している。国政選挙において政権交代があり、公共事業の見直しが行われており、21年度予算の概算要求では、原則15%減の大変厳しいものがある。国民の必要とする食料を安全、安心、安定的に提供するため引き続き土地改良事業の推進に努めて参りたい」とあいさつした。(開会挨拶を別掲)

来賓祝辞などに続いて大会議事に入り、工藤久兵衛副会長(井川町土地改良区理事長)を議長に選出し、県農林水産部の川原次長による秋田県農業農村整備事業の現状報告が行われた。

また①農業農村整備事業予算の確保②農業水利施設の計画的更新と適切な保全管理③農地情報の一元的管理とデータベース化の推進④農地・水・環境保全向上対策の推進⑤耕作放棄地の解

消、中山間地域の総合的振興⑥21世紀土地改良区創造運動の邁進。などをもちこんだ大会決議案を昭和土地改良区職員の奈良崇史さんが力強く朗読し、満場の拍手で決議が採択された。

このほか、土地改良事業に尽力された9個人、2団体の表彰、第12回美しく豊かな農村づくり写真コンクール表彰式が行われ、土地改良事業のたゆまぬ推進を誓った。

なお、土地改良事業関係の被表彰者は次のとおり。(敬称略)

#### 【知事表彰】

〈個人〉

- ◇戸田達雄(大館市南土地改良区理事長)
- ◇進藤八千代(河辺土地改良区会計主任)
- ◇藤沢幸遠(秋田県田沢疏水土地改良区事務局長)

〈団体〉

- ◇大仙市神宮寺松倉堰土地改良区(高橋新亮理事長)
- ◇仙北平野豊川土地改良区(藤原一男理事長)

#### 【会長表彰】

- ◇小館昇(かづの土地改良区理事)◇菊池博悦(山本郡岩堰土地改良区理事長)◇木元政勝(八郎潟西部干拓地区土地改良区理事)◇高橋慶市(秋田県仙北南部土地改良区総括監事)◇栗林正夫(大仙市大曲土地改良区理事)◇太田明雄(山城水系土地改良区理事長)

## 大会あいさつ



水土里ネット秋田会長

### 高 貝 久 遠

土地改良事業推進大会の開会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。本日は、関係者皆様には多数ご参会頂き、このように盛大に開催することができました。

厚くお礼申し上げます。

また、後程ご紹介申し上げますご来賓の皆様には、ご多用中のところご臨席を賜り誠に有り難うございます。

皆様には日頃から農業農村整備事業の推進はもとより、水土里ネットの運営につきまして、特段のご理解を頂いており、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、今年の県内の天候は夏の長雨と日照不足により稲の作柄や野菜、果樹等の生育不良が心配されましたが、西日本のような豪雨による甚大な災害に見舞われることもなく、どうか平年の作柄を確保できるようであります。

この大会は第132回を数える種苗交換会と機を一にして開催しており、農家が苦勞して育てあげた汗の結晶の収穫を感謝するこの時期に、生産基盤の整備と維持・管理を担う土地改良関係者が来年の五穀豊穡を願いながらこのように一同に会しますことは誠に意義深いものがあるものと存じます。

今年の会場となったこの秋田市は、県庁所在地として県下一の人口密集地の消費都市であります。一歩市街地を抜け出しますと立派に整備された美田が広がり都市近郊の野菜、果樹の生産団地が広がっている他、作り酒蔵、漁港等も備わっており、美の国秋田、食の国秋田の「口の肥えた」秋田市民の食料を充分賄っております。

この後、引き続いて表彰が行われますが、受賞される個人並びに団体の方々の高いご功績に対し、改めて敬意と感謝の意を表しますと共に、今後ともご健勝で農業農村整備事業の促進と地域社会の発展のためご尽力頂ければ、幸いに存じます。

また、写真コンクールで受賞された方々には、コンクールの趣旨に沿った優れた作品を応募して頂き、誠に有り難うございました。心から、お祝い申し上げます。

さて、今年の夏は地球温暖化による異常気象の到来かと思わせる豪雨災害ばかりでなく、衆議院選挙において自由民主党が昭和30年の結党以来初めて第一党の座を失い、戦後初めて総選挙で野党が単独過半数を得て政権が交代するという政治上の歴史的な大転換が起きました。

皆様ご承知のこととは思いますが、民主党のマニフェストでは「国民の生活が第一」等と訴え、政策の各論に、戸別所得補償制度で農産漁村を再生する(1.4兆円程度)、食の安全・安心を確保する(3,500億円程度)、外交では、「緊密で対等な日米関係を築く」ため米国との間で自由貿易協定(FTA)の交渉を促進し、貿易・投資の自由化を進める。

その際、食の安全・安定供給、食料自給率の向上、国内農業・農村の振興などを損なうことは行わない。等を掲げられました。

このマニフェスト実現のための財源として公共事業の見直し等(9.1兆円)、埋蔵金等の活用(5.0兆円)、租税特別措置の見直し(2.7兆円)により平成25年度には16.8兆円の財源を実現するとしております。

その一環として早速、21年度の補正予算の見直しに着手され、農水省関係では「農地集積加速化促進事業」約3,000



▲高貝会長あいさつ

億円の全面停止を含め4,763億円が削減され、全体では3兆円に迫る金額となっております。

一方、10月15日には、平成22年度の概算要求が取り纏められマニフェストに掲げた政策関連予算7.1兆円を織り込んだ結果、総額で95兆円に達し前年当初予算に比べ、6兆5千億円の増加となっております。

農林水産省分では予算総額2兆4,071億円（前年比6%減）で、公共事業は15%減の8,495億円となっております。

そのうち、私共と密接なものとして「農地・水・環境保全向上対策」233億17百万円（16%減）、「農地有効利用生産向上対策事業」43億円（62%増）、「耕作放棄地再生利用緊急対策交付金」70億2千万円（66%減）等となっております。

私共水土里ネットが、その整備に取り組んでいる農業生産基盤は、工場で言えば工作機械やベルトコンベア等の様々な生産手段に当たります。

我が国は優れた「ものづくり」で世界でも有数の工業製品の製造・輸出国となっておりますが、それは日本人の勤勉さと相まって研究開発をはじめ最新鋭機の導入等の投資を怠らなかつたからに他ありません。

翻って我が国の農業につきましては、戦後の復興期から私共の先人が営々と土地改良事業を推進し、今日の見事な美田や畑地、樹園地、採草放牧地、ダム、頭首工、ため池、用排水路及び農道等の農業生産基盤を築きあげたところであります。

農業は国民の生命を支える食料を生産する大事な産業であり、世界の趨勢は、人口の増加に伴い不足こそすれ過剰になることは有り得ないのであります。

国連の発表によりますと平成20年の世界人口は67億5千万人であり、42年後の平成62年（2050年）には24億4千万人余り増えて、91億9千万人に達すると予想されております。

また、経済発展著しい中国、インド、ブラジル等の中で特に中国は、鉱業資源やエネルギー資源の確保に躍起となっており、食料においても国民の生活水準の向上に伴い肉類の需要が増加し、飼料穀物に対する需要が高まりつつあります。

一方、世界の穀物の最大の輸出国であるアメリカは食料の輸出からバイオ燃料へ政策転換して穀物価格の高騰を招来し、中南米諸国で主食であるトウモロコシの入手が困難になったのは記憶に新しいところであります。

世界的食料不足に陥った場合、アメリカが自国の必要な食料を削ってまで食料自給率40%の日本に振り向けてくれるのでしょうか。自分の身は自分で守るしかないのであります。

農業基盤は食料の生産基盤であり、その整備は国民の必要な食料生産の効率を高め、安全で安心な食品を安定的に生産し、消費者に届けるため行われるもので、無駄な投資は一つもないと確信するものであります。

昔から不況時の失業対策に公共事業が活用されたのは周知の事実であります。

不要不急の公共事業は確かに見直す必要があろうかと存じますが、農業基盤に対する投資は、食料の生産性の向上と地元農業者の就業機会の創出が図られますので、増額はともかく前年並みの予算措置をお願いしたいと存じます。

農業は人類が狩猟から農耕に生活の糧を求めた古代から人間が生きるために絶える事無く続けてきた営みであります。



▲受賞者と記念写真

日本の農業者が国民の必要とする食料を安全、安心、安定的に提供することに異論を唱える人は誰一人もない筈であります。

私共水土里ネット関係者は、現在そして将来の我が国、国民のために農業農村整備事業の一層の推進を誓い、立派な農業生産基盤を後世に引き継ごうではありませんか。

結びに、ご来賓の皆様方には農業農村整備事業の着実な推進のため、引き続き特段のご指導、ご支援を賜りますよう、またご参会皆様方の更なるご活躍とご繁栄を祈念申し上げ、開会に当たってのあいさつとします。

## 大 会 決 議

地球規模での人口増加や新興国の旺盛な食料需要等に伴う世界的な穀物の需給逼迫、エネルギー、鉱物、飲料水等の資源争奪など世界の動向は依然不透明である。

加えて、国・地方の財政悪化や農産物価格の低迷、農業後継者の減少・高齢化による農業労働力の脆弱化などにより我が国の農業生産力は危ういものがある。

また、我が国の食料自給率は昭和36年の78%をピークに、現在の40%は世界の先進諸国中、最低水準にあり、今こそ必要な食料を自ら確保するという信念のもとに農業の振興に努める時である。

我々水土里ネットは、この様な状況を踏まえ、農業の体質強化を図りながら、生産基盤である農地・農業用水等を質的、量的に良好な状態で確保し次世代に継承していく重要な使命を担っている。

また、これまで培ってきた経験と技術を活かし、活力ある農村社会の構築と本県農業の体質と供給力の強化に積極的に貢献していく覚悟である。

このため下記事項の実現のため、一致団結して、農業農村整備を推進していくことを本大会の名において決議する。

- 一、農業農村整備事業は、国民の必要とする食料を安全、安心、安定的に供給するために不可欠な生産基盤を確保し、地域農業者の就業機会の創出も図ることから国は必要な予算を確保すること
- 一、基幹的農業水利資産を次世代に引き継ぐため、老朽化が進む農業水利施設の計画的な更新と適切な保安全管理を推進するなど、国はその責務を十分に果たすこと
- 一、農地情報を一元的に管理し、農地の利用集積、水田の計画的汎用化及び権利関係の確認等に資するため、農地情報のデータベース化等に積極的に取り組んでいくこと
- 一、地域と連携して農村の身近な資源や環境の適切な保全と質的な向上を図るため、農地・水・環境保全向上対策に主体的に取り組んでいくこと
- 一、農村の過疎化を防止し、地域の農業生産力を高めるため、耕作放棄地の解消・中山間地域の総合的振興等に取り組んでいくこと
- 一、時代の要請に応じた地域づくりの拠点としての機能を果たすべく、関係者が一丸となって「21世紀土地改良区創造運動」に邁進していくこと

以上決議する。

平成21年11月2日

秋田県土地改良事業推進大会

## 第32回 全国土地改良大会

### 島根大会が開催される

#### ■国引きのロマン・水・土・里の 想い神話の郷から今、未来へ

10月28日、島根県松江市「くにびきメッセ」で、全国水土里ネットと水土里ネット島根の主催による第32回全国土地改良大会が開催され、約3,600名(本県参加者88名)の土地改良関係者が全国各地から参加した。

大会式典では冒頭に開催県の青木幹雄水土里ネット島根会長が挨拶で、「土地改良法が制定され60年が経過したことに触れ先人が築いた農業農村環境を良好な状態で次世代に継承するため、農地・水・環境保全に全力を挙げて今後ともこうした事業を継続していく」と挨拶した。



▲野中全国水土里ネット会長あいさつ

続いて、主催者の野中広務全国水土里ネット会長が挨拶で「食料自給率の向上と農業農村基盤整備は密接につながっているとし、農業水利施設の維持と更新を確実に進め、農村を活性化させ、持続可能な国土を保全させる必要がある」と挨拶、歓迎の言葉、来賓祝辞が行われた。

その後土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰47名が表彰された。本県からは、**全土連会長表彰を三澤敏行氏**(北秋田市綴子土地改良区理事長)が受賞した。



▲受賞された三澤理事長

また、「健全な水・土・里を守ることにより、「食料」「水」「エネルギー」の資源供給を担うばかりではなく、「国土」を保全する重要な責務をも担う者として、国民の負託と信頼に一致団結して応えていく」という大会宣言が採択され、食料自給を支える農業農村整備の重要性を再確認する大会となった。

[次の開催地は、来年10月に長崎県で開催されます]

## 全国水土里ネット 「水土里の集い」を開催

11月30日(月)、全国水土里ネットが主催する「水土里の集い」が開催され、全国各地の土地改良関係者や農地・水・環境保全向上対策(活動組織)関係者など約600名が参集した。毎年同時期には「農業農村整備の集い」が開催されていたが、今年は現下の農業情勢を理解するとともに各地における取組や関連する課題・提言などの意見発表を通じて、問題意識を共有することを目的に「水土里の集い」として開催された。

第一部の講演会では、全国水土里ネットの阿武企画研究部長による基調報告、鈴木宣弘氏(東京大学教授/食料・農業・農村政策審議会企画部会長)による特別講演『「食料危機」の教訓をどう活かすか』が行われ、グローバルな視点から日本の食料確保のあり方、農業・農村の存在意義、将来の日本に求められる新政策などについて持論が述べられた。

第二部の発表会及び表彰では、全国水土里ネットの野中広務会長の主催者挨拶に続いて、表彰(①21世紀土地改良区創造運動、②ため池のあ

る風景写真コンテスト、③疏水のある風景写真コンテスト)や21創造運動大賞受賞地区による事例発表、各ブロック代表による意見発表が行われた。

本県関係では、今年度の21創造運動さなえ賞を水土里ネット西木(仙北市西木土地改良区、理事長伊藤長三)が受賞したほか、意見発表では東北ブロック代表として本会の黒子高夫専務理事が「農地・水・環境保全向上対策における現状と課題」について意見を述べた。この中で黒子専務は、県内での取組状況や活動事例を紹介しながら「次期対策への継続と、土地改良区が管理している施設の維持・保全活動がより有効に行えるような制度拡充に向けた全国的な運動展開が必要である」と同対策に対する提言を行った。



▲さなえ賞受賞  
水土里ネット西木(左)



▲意見発表を行う黒子専務理事



11月26日(木)、秋田テルサ(秋田市)で県内で農村地域の環境保全対策に取り組んでいる活動組織の連携と情報交換を目的とした事例発表会が開催され、関係者など約400名が参加した。

### 菅原秋田県農林水産部農村振興課長

農地・水・環境保全向上対策、耕作放棄地対策、中山間地域等直接支払制度の三つの施策は、地域ぐるみの協働活動として定着し、農業・農村の多面的な機能や環境、地域資源の維持保全に大きな役割を果たしている。昨日開催された、「綴子大太鼓の里保全隊」の現地検討会では、学校との連携による、子どもからお年寄りまで参加した大規模な地域交流活動を拝見して、委員から感動したとのコメントがあった。地域ぐるみでの素晴らしい活動に、改めて、農業農村の「教育の力」を感じたところである。

最近、民間企業では、耕作放棄地の再生や小規模高齢化集落の支援など、社会貢献活動が盛んに行われるようになっており、これらと比較しても、皆さんの活動は、地域の社会貢献活動として超一級の活動であり、改めて敬意と感謝を申し上げたい。去る11月2日に開催された「農村環境保全・活性化フォーラム」では、皆さんの地域資源保全活動とグリーン・ツーリズム、観光ともつなげて、新たなコミュニティ・ビジネスの可能性について提言がなされている。

コミュニティ・ビジネスは、地域資源を活かしながら地域の課題に対してビジネス的手法で取り組むものであり、県では新たな重点プロジェクトの一つとして、他産業とも連携しながら、地域資源を最大限活用したア



▲菅原課長あいさつ

グリ・コミュニティービジネス支援事業を、来年度新規の目玉として検討しており、こうした新しい動きにも積極的にチャレンジしていただきたい。

### 秋田県農地・水・環境保全向上対策地域協議会 副会長 鎌田秋田市農林部長

農地・水・環境保全向上対策協議会の代表としてご挨拶申し上げます。

ご案内のように本県の農地水環境保全向上対策は、農業振興地域の4割に相当する63千haと全国でもトップクラスの規模で、平成19年度からこの対策に取り組み、今年で3年目を迎えている。それぞれの活動組織におかれては、活動の3年目に策定が求められている体制整備構想についての話し合いが盛んに行われていることと思われる。この体制整備構想は農村環境の適切な保管理と質的向上のあり方を話し合うことを通じて、共同活動が将来、自立的に地域に根ざしていくことがねらいとされている。

共同活動のもとに展開されている営農支援活動は、農薬・化学肥料を減ずることによる農村の環境を保全するだけでなく、消費者に対するイメージアップの効果も高く、今後ともエリアの拡大を図る取り組みにより本県の農業全体への波及効果があると大いに期待されている。

この事例発表会は、農業農村における重要な3施策の連携により、郷土の原風景(ふるさと)を守りつつも、いかに地域を活性化させていくかという共通課題での開催と認識している。

今日は、素晴らしい取り組み事例や今後の課題についての発表があるので、会場の皆様からは率直なご意見をお願いしたい。

それぞれの施策を通し、定着しつつある地域活動が多く、県民から強く支持されることで制度の継続に繋がると思っている。特に、農地・水・環境保全向上対策は3年目に入り、活動組織に取組状況の差も見られるようになってきているが、引き続き本対策が県民運動として定着することを切に願っている。



▲鎌田副会長あいさつ

## 農地・水・環境保全向上対策

活動組織名	市町村	協定面積	発表の主なテーマ
大巻地域資源環境保全会 発表者：渡部耕民	大館市	77ha	<p>&lt;潤いといやしの花達&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マリーゴールド等の植栽400株</li> <li>・子供会、老人会等を取り込んだ地域ぐるみの取り組み</li> <li>・環境に対する意識高揚、潤いと癒しの場の形成、地域の絆の強化等</li> </ul>
大湊村農地・水・環境保全向上対策 推進会議 発表者：佐藤繁美	大湊村	8,994ha	<p>&lt;みんなで創ろうきれいな八郎湖&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八郎湖の水質悪化 全国11番</li> <li>・水質保全・汚濁防止へのぼり旗等による啓発、浅水かき、コンテナの設置、木炭の活用、水辺植物の植栽、モニタリング</li> <li>・景観形成～農道草刈り、菜の花等の植栽</li> <li>・村ぐるみの取り組み、代掻き時の汚濁減少、環境美化、世代間を超えた取り組み</li> </ul>
石成地域資源保全活動組織 発表者：小場健一郎	横手市	94ha	<p>&lt;イバラトミヨの調査・保全活動(生態系保全)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希少生物(イバラトミヨ、ミクリ)の保全</li> <li>・神明沼の浚渫に伴いイバラトミヨを一時的に隔離保護し、工事完了後 元に戻す、周辺の草刈りも併せて行い景観を美化</li> <li>・郷土の自然に対する地域の理解が深まった。</li> <li>・希少生物の保護により自然を守る活動を次世代に継承</li> </ul>

## 耕作放棄地再生利用緊急対策

活動組織名	市町村	協定面積	発表の主なテーマ
鹿角地域耕作放棄地対策協議会 発表者：関本和人	鹿角市	13ha	<p>&lt;耕作放棄地の再生とその活用方法について&gt;</p> <p>～そばの里づくり目指して～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿角市耕作放棄地 230ha 全県(458ha)で一番多い</li> <li>・10a当り最大25,000円の助成(市支援) [そばの里プロジェクト推進事業]</li> <li>・H21作付け実績(市全体) 69ha(取組者：農法したかわら)</li> <li>・そばの加工、販売への取り組み</li> </ul>
三種地域耕作放棄地対策協議会 発表者：笹村優樹	三種町	10ha	<p>&lt;耕作放棄地再生にチャレンジ&gt;</p> <p>～NPO法人の農業参入がもたらした地域貢献～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊休農地の増加 高齢化、人口流出、価格低迷</li> <li>・耕作放棄地 33.8ha NPO法人一里塚の農業参入</li> <li>・再生地を土地改良区と協議</li> <li>・再生面積 735a ブルーベリー、蕎麦 国交付金、企業支援等の活用</li> </ul>
大仙市水田農業推進協議会 発表者：新田一実	大仙市	4ha	<p>&lt;もう一度本格営農できる水田に&gt;</p> <p>～自己保全管理水田の有効活用～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄解消面積 3.2ha(田2.8ha 畑0.4ha)</li> <li>・落合農事研究会 国の支援制度をきっかけに休眠状態から活動再開</li> <li>・大根→地元加工施設、大豆→JA交付金を活用</li> <li>・地域に活気がよみがえる。[今後の目標]法人化、作目の拡大</li> </ul>



## 中山間地域等直接支払制度

活動組織名	市町村	協定面積	発表の主なテーマ
戸島内集落協定 発表者：柴田誠	北秋田市	24ha	<「マタギの里」阿仁戸島内地区の棚田の保全活動> ・日本一の棚田面積 25ha（年間40万人の観光客） ・草刈、素掘水路の維持管理、U字溝の補修 ・ブランド米「天空の舞い」の生産 ・集落の維持、農地保全、景観美化
横岡集落協定 発表者：佐藤輝一	にかほ市	159ha	<鳥海山麓の美しい棚田を未来へつなぐ協定活動> ・鳥海山麓の段差のある水田 ・集落協定への取り組み 5団地（グループ） ・助成の活動活発化、農道、水路の利便性向上、建設的意見、集落行事の円滑化～対策の継続要望
松岡集落協定発表者：宮原正明	湯沢市	119ha	<美しい松岡の里づくりのために> ・農地・水と中山間のダブル実施（隣接） ・農道・水路の維持管理、体験農園、無人ヘリによる農作業、広報誌の発行

### 講演

## 農業用水源の保全・再生に向けた新たな取り組み

東京大学大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター

教授 古米 弘明

「我が国の水資源と水利用」から説き起こし、「農業用水と水質基準」では、水田の取水量は近年減少傾向にあり、農業水利施設の整備では生態系・環境への配慮から多面的機能を発揮する取り組みが必要であると説明され、八郎湖の水質にも言及された。また、ご自身が関与された神奈川県、主に飲料水の水質問題に触れ、単にダム湖等の水源の水質改善に取り組むだけでなく他県と連携して上流域の森林の整備を図った方が効果的でコストも少なく済むと話された。

「水源環境管理に向けた今後の課題」では、上流と下流の住民が意識を共有して地域・

流域特性を考慮した計画を作るとともに後追いの、対処療法的な対策ではなく、水質監視モニタリング等科学的知見に基づく管理統合システムの構築が重要であるとされた。また、特定の工場排水等、汚染源をポイントとしてだけでなく農地、水田等面的に捉える必要があり、情報の公開や住民参加の体制づくりが求められていると述べられた。



▲古米教授講演

## 農村防災・災害対応実証調査

吉田沢ため池で  
「ため池災害訓練」実施

近年、集中豪雨や地震による災害が頻発している中、ため池を始めとする農業用施設等においては、農村地域の都市化、混住化や施設の管理者の高齢化が進行して、管理が粗放化するなど、防災・減災等の的確な対応が懸念される状況になっております。

本事業は、このような状況に対応するため「農村災害ボランティア(※1)」を活用して、市町村や施設管理者等に対する災害対応の指導體制等の整備を推進するもので、19年度から農林水産省の補助で、全土連が事業主体として実施しており、秋田県土連は、21年度に北海道土連、岐阜県土連、兵庫県土連とともにモデル道県として事業実施しております。

「ため池訓練」は、秋雨前線の影響で遅れ気味だった稲刈りも終わった、10月20日の13時に、本県が震度5弱の地震に襲われたことを前提に、秋田市北部の吉田沢ため池(新城川土地改良区)において実施されました。当日は、ため池の管理者である新城川土地改良区の全面的な協力の下、農村災害ボランティア8名を含む関係者35名の参加により、①非常警戒体制時の連絡網の

チェック ②ため池の被災状況調査について行いました。このような「訓練」は、県土連、秋田県農村災害支援協議会としても初めての試みでしたが、ボランティアを始めとする関係者の熱心な取り組みにより、16時をもって終了しました。



▲堤頂部の亀裂調査(訓練)



▲被害状況報告(訓練)

また、11月19日、秋田市において本事業の「現地検討会」が行われ、この「訓練」に参加したボランティアを含む関係者のほか、国2名(農林水産省、東北農政局)、事業の中央検討委員3名など、関係者25名による活発な意見交換がなされました。

県土連としては、この結果を受けて12月末までに調査報告書を提出することになっており、全土連、農林水産省は全国のデータを基にH23年度までにマニュアル化することになっております。



▲現地検討会

(※1) 農村災害ボランティア：農業用施設等の防災・災害復旧に関する知見を有し、ボランティアとして活動する意向を持つ技術者。(現在、県内で62名が登録)

## 平成21年度 農業農村整備技術強化対策事業

## 「団体営事業支援研修(施工技術研修)」

平成21年11月10日(火)～11日(水)、秋田市「秋田県社会福祉会館」において団体営事業者を対象に標記技術研修が66名の参加のもと開催された。

この研修は、発注者支援を視野に入れ、設計・積算・施工管理に関する専門的知識の修得により団体営事業担当技術者の技術力向上を目的にブロック毎に開催されるもので、本県がH21～H22東北・北海道ブロック連絡協議会の事務局を担当していることから本県での開催となった。開催に当たり本会の黒子高夫専務理事が「今回のテーマは、9月開催のブロック会議で決定して



▲黒子専務あいさつ

おり、近年の事業内容の複雑化や技術の高度化・多様化が進んでいる中で、農業農村整備事業を円滑かつ、適正に推進するため、市町村、土地改良区等関係職員、土地連の技術力向上を図る各種研修はこれまで以上に重要になってきていると考えている。政権交代という政策の転換期にあっても農家のために、農村のために我々土地改良人がなすべきこと・使命や視点をしっかりとしなければと思っている。今回の研修会等が皆様にとって有意義なものとなるようご祈念申し上げます」と挨拶した。

## 1日目 11月10日(火)



▲奥室長

○東北農政局整備部設計課奥直樹事業調整室長が農業農村整備事業の情勢についてと題して講義された。

①国際的な食料事情の変化②農業農村の現状③農業農村整備事業の展開方向近年の主な施策について、本県の取り組み事例を交えて説明された。



▲山信田係長

○土地改良技術事務所山信田智子設計技術第2係長が土地改良事業計画設計基準・設計「パイプライン」の改定についてと題して①パイプライン設計における耐震設計の考え方について具体的な設計の流れについて②水撃圧の推定方法(経験則と計算により方法の区分)の見直し③補修・補強に関する技術資料の整備について説明頂くとともに④新技術の取り込みに

ついて、管路の曲線布設等の事例等を交えて基準書の発刊前の最新情報を提供、解説頂いた。



▲大出係長

○東北農政局整備部 水利整備課 大出薫施設管理係長がストックマネジメント(補修・補強方法)についてと題して、

①補修工法・補強工法について②「農業水利施設の機能保全の手引きーパイプラインー」の策定③ストックマネジメントに関する制度等の講義され、事業実施について受講者との活発な質疑応答(大型の柵工の改修等)がなされた。

## 2日目 11月11日(水)



▲藤原上席主幹

○秋田県農林水産部農地整備課水利整備・防災班藤原和信上席主幹(兼)班長が秋田県における基幹水利施設ストックマネジメントについてと題して秋田県の事業実施例について施工写真を用いた説明の後、県外受講者に向けて本県の農業の概要として大規模複合経営体の育成等の取り組みが紹介された。

○水土里ネット秋田農地整備部農地整備班石井淳主査が、環境配慮工事の実施例(本城頭首工魚道)と題して、設計に至るまでの経緯として研究者とのやりとり等、実施設計者の立場から具体的な説明と、完成した現場の動画を交えた講義に受講者との活発な質疑応答(魚道の勾配設定や、魚の遡上の実態と地元の評価等)がなされた。

## 平成21年度 土地改良関係団体役職員講習会を各支部で開催



▲雄勝支部

平成21年度土地改良関係団体役職員講習会が11月12日の平鹿支部を皮切りに9会場で開催された。この講習会は土地改良区役職員の資質の向上と最新の農業情勢や課題の把握等に資するため毎年実施しているもので、788名が参加した。講習会のメインテーマは「土地改良区が行う滞納処分について」で、近年、土地改良区の未収賦課金が増加するとともに長期化、高額化する傾向にあり、組合員に対する滞納処分が避けて通れない状況にあることから秋田県の税務職員に講師をお願いし、滞納処分の実務を中心に講義が行われた。

土地改良区が行う滞納処分の財産は主に不動産(農地)で、抵当権が設定されている場合が多



▲山本支部

く、回収に苦心していたが、講義では動産に対する差押えの詳細な説明があり、参加者は熱心に聴き入っていた。また、「農業農村を取り巻く情勢と土地改良団体の役割」と題し、全国水土里ネットの茂木吉成参与から講演頂き、土地改良区の果たすべき役割と期待は以前にも増して大きくなっており、①地域の農地や農業用水施設を適切に管理する方法②土地改良区を充実強化する方法③地域社会、地域政策と共存していく方法④地域を活性化していく方法について関係者が真剣に考えるべきであると述べられた。

次の方々からご講義頂きました。ご協力ありがとうございました。(敬称略)

### ❖土地改良区が行う滞納処分について

秋田県総務企画部税務課副主幹 唐津信浩  
秋田県総務企画部税務課主任 浅利英樹  
秋田県総務企画部税務課主任 樋口英幸  
北秋田地域振興局県税部副主幹 長内一宏  
北秋田地域振興局県税部副主幹 小林伸也  
北秋田地域振興局県税部主事 菊池麻維  
平鹿地域振興局県税部副主幹 後藤昭市  
平鹿地域振興局県税部副主幹 小西泉

### ❖GT(グリーンツーリズム)を活用した 秋田型コミュニティビジネスについて

秋田県農林水産部農山村振興課長 菅原徳蔵

### ❖秋田県農業農村整備事業の展開

秋田県農林水産部農地整備課事業調整監 松橋久光  
秋田県農林水産部農地整備課副主幹 佐藤暢芳

### ❖管内状況報告

鹿角振興局農林部農村整備課長 小野富夫  
北秋田振興局農林部農村整備課長 中川正之  
山本振興局農林部農村整備課長 佐々木義男  
秋田振興局農林部農村整備課長 倉部明彦  
由利地域振興局農林部農村整備課長 戸田一夫  
仙北地域振興局農林部次長 湊正明  
平鹿地域振興局農林部農村整備課長 中村章  
雄勝地域振興局農林部農村整備課長 藤田馨

## 平成21年度秋田県農村総合整備センター

### 幹事会、運営委員会を開催

11月20日、秋田市「土地改良会館」で、秋田県農村総合整備センター幹事会と運営委員会が開催されました。運営委員会は、県農林水産部農山村振興課地域環境保全班の田村班長、建設部下水道課環境整備班の三浦主査、北秋田市農林課の工藤課長、横手市産業経済部の粕加谷次長、本会の三澤副会長、黒子専務理事、藤原技監の出席で開催され、三澤副会長が運営委員長に選任されました。委員会は三澤新委員長の議長で議事が進行、質疑が交わされ、提案どおりH21年度の事業計画及び収支予算が承認されました。

例年、幹事会は5月頃の開催、運営委員会は年度末の3月の開催でしたが、農村総合整備センターが実施する、「農村振興総合整備推進事業」が、東北農政局管内の「公募」制となり、9月1日に応募して補助金交付候補に選定され、11月2日に補助金交付決定を受け、事業開始となったことから両会とも11月の開催となったものです。

本年度の事業計画は、「公募」の課題に沿った提案事項であり、「啓発・普及」、「技術力向上対策」、「技術指導」、「調査研究」の4項目の提案のうち、「啓発・普及」は農業集落排水資源循環統合補助事業に限ると規定されたことが従来と異なる点でした。

このように、推進事業のスタートが11月になったことから、例年7月頃開催しておりました農村総合整備センターが主催する「技術力向上対策」の研修会も、1月下旬の予定としております。詳細については後日ご案内致しますのでご参加下さいますようお願い致します。



## 県、県議会への要請活動

12月14日(月)、平成22年度の予算編成に向けて高貝会長、工藤副会長、三澤副会長、黒子専務理事、水戸常務理事の5名が県並びに県議会に要請活動を行った。県には、佐竹知事、佐藤農林水産部長に要請書を提出し、①平成22年度農業農村整備関係予算の確保について②農地利用集積を加速化する施策の充実について③農地有効利用支援整備事業へ国が引き続き関与することを要請し、意見を交換した。県議会には、富樫県議会議長に要請書を提出した。



# 事業竣工

## ■ 県営経営体育成基盤整備事業・区画整理型 (女米木地区)

### [事業概要]

- ・事業期間 H12～H21
- ・受益面積 138ha
- ・総事業費 2,456百万円
- ・事業量 区画整理 A=124ha
- ・負担団体 雄和中央土地改良区

## ■ 県営経営体育成基盤整備事業・区画整理型 (糸流川地区)

### [事業概要]

- ・事業期間 H15～H21
- ・受益面積 44ha
- ・総事業費 840百万円
- ・事業量 区画整理 A=44ha
- ・負担団体 琴丘土地改良区

## ■ 県営経営体育成基盤整備事業・区画整理型 (大沢地区)

### [事業概要]

- ・事業期間 H16～H21
- ・受益面積 21ha
- ・総事業費 353百万円
- ・事業量 区画整理 A=21ha
- ・負担団体 河辺土地改良区

# 会員だより

## 仙北市長に門脇氏が就任

仙北市は任期満了による選挙の結果、10月30日付けで市長が下記のとおり就任されました。

市長 門脇光浩

## 平成21年秋の勲章(関係受賞者)

平成21年秋の叙勲の受賞者が11月3日に発表されました。対象者は、教育や福祉、地方自治、消防などの分野で長年にわたり社会貢献してきた方々です。本会の会員からも土地改良事業の功績が認められ次の方が受賞されました。おめでとうございます。

### ◆ 旭日双光章(土地改良事業功労、地方自治功労)

細川俊雄

- ・仙北市黒倉堰土地改良区理事長
- ・元仙北市議会議員

## 連合会日誌

11月2日	農村環境保全・活性フォーラム(耕作放棄)	秋田市
11月9日	平成21年度秋田県土地連中間監査(～10日)	秋田市
11月9日	都道府県土地連事務責任者会議	東京都
11月13日	県営農地集積加速化基盤整備事業竣工式典(糸流川地区)	秋田市
11月14日	県営経営体育成基盤整備事業竣工式典(女米木地区)	秋田市
11月16日	土地改良換地対策全国協議会役員会	東京都
11月17日	秋田支部平成21年度提言活動	仙台市
11月27日	平成21年度農業農村整備技術審査向上対策事業「臨場指導研修」	秋田市
12月6日	県営経営体育成基盤整備事業竣工式典(大沢地区)	秋田市
12月8日	大館・北秋田支部平成21年度提言活動	仙台市、東京都
12月10日	平成21年度秋田県担い手アクションサポートチームアドバイザー会議	秋田市
12月10日	地域担い手育成総合支援協議会担当者研修会(～11日)	秋田市
12月10日	平成21年度東北標準積算システム利用団体連絡会(～11日)	盛岡市
12月14日	平成21年度第1回会長・副会長会議	秋田市
12月15日	平成21年度換地処分実務研修	秋田市
12月15日	平成21年度秋田県農業集落排水連絡協議会担当者研修会(～16日)	秋田市
12月17日	山本支部平成21年度政策提言活動	東京都
12月18日	平成21年度第7回監事会	秋田市
12月18日	平成21年度第3回理事会	秋田市

## 今後の行事予定

1月12日	平成21年度農業農村整備技術強化対策事業「一般研修」	秋田市
1月14日	平成21年度農業農村整備事業品質確保推進事業品質確保支援研修会(～15日)	仙台市
1月21日	平成21年度小水力発電事業中央研修会	東京都
1月22日	水土里ネット秋田職員会役員会並びに意見交換会	秋田市
1月28日	平成21年度換地計画推進全国会議	東京都



# 農業農村整備フェア

▶ 農業・農村の多面的機能をPR!!

第132回秋田県種苗交換会の協賛行事として開催！

▲ 縄ないの体験コーナー

交換会を開催地である秋田市（第4協賛会場：秋田ニューシティ3F）で行われ、多くの来展者で賑わった。

フェアは、水土里ネット秋田のほか、東北農政局（西奥羽土地改良調査管理事務所、平鹿平野農業水利事業所）と秋田県の共催で、毎年人気の縄ないの実演・体験を行う「ふれあい体験コーナー」の開設、写真入りカレンダーの作成、農業用水水源地域保全対策・農業集落排水事業のジオラマ展示、各団体が取り組んでいる「農業農村整備」に関するパネル紹介などを行った。

来展者は、サービスのポップコーンを手にしながら、パネルやジオラマ（模型）の前で立ち止まりながら真剣に見入っていた。また、縄ない体験コーナーでは、指導者から手ほどきを受けながら、時間を忘れて楽しそうに縄ないに興じている姿も見受けられた。

水土里ネット秋田では、写真コンクールの入賞作品展や「農地・水・環境保全向上対策」や「21創造運動」などの各地域での取り組み紹介、「農業用水水源地域保全対策事業」をPRしたジオラマ（模型）などの展示物を展出したほか、土地改良相談コーナーの開設やアンケートを行い、来展者の生の声を聞きながら、水土里ネット秋田の役割や農業・農村に対する理解を深めてもらうためのPRに努めた。



▲ 模型に見入る子供

## メールアドレスの変更について

本会が実施している土地改良区のインターネット接続支援を活用して新規にインターネット接続した会員及びプロバイダーをOCNに変更された会員のメールアドレスは以下のとおりですので、お知らせします。

土地改良区名	メールアドレス
能代北部土地改良区	n-hokubu@cosmos.ocn.ne.jp
二ツ井町富根土地改良区	tomineto@rhythm.ocn.ne.jp
二ツ井町土地改良区	midori.futatsuumachi@rhythm.ocn.ne.jp
鳥海町上川内堰土地改良区	midori-kamikawauchi@rhythm.ocn.ne.jp
大仙市大曲土地改良区	omagari@rhythm.ocn.ne.jp
大仙市西仙北土地改良区	dainishitokai@rhythm.ocn.ne.jp
大仙市鶯野土地改良区	midorinet-uguisuno@rhythm.ocn.ne.jp
秋田県西仙北土地改良区	akinishi-satou@rhythm.ocn.ne.jp
秋田県仙南土地改良区	sennan-tokai@rhythm.ocn.ne.jp
おものがわ土地改良区	midori-omono@rhythm.ocn.ne.jp
阿気土地改良区	midori-age@rhythm.ocn.ne.jp
湯沢市中央土地改良区	yuzawachuoh-tokai@rhythm.ocn.ne.jp
大館市十二所土地改良区	junisyo@diary.ocn.ne.jp
南秋田郡大川土地改良区	daidokai@jupiter.ocn.ne.jp
能代南土地改良区	noshirominami.ok@rhythm.ocn.ne.jp
比内町土地改良区	hinai-tokai@beetle.ocn.ne.jp
西目土地改良区	mn-nisime1@sound.ocn.ne.jp
能代市榊土地改良区	spa86bx9@themis.ocn.ne.jp
飯田川土地改良区	iitagawa_kai@rhythm.ocn.ne.jp

【支援内容】

- ・インターネット接続機器（ルーター、モデム、スプリッター等）
- ・プロバイダー接続料（H21新規） インターネット接続済み会員は89改良区です。（11月末現在）

# 疏水のある風景写真コンテスト2009

本県から  
2作品が  
入賞!!

10月21日(水)、「疏水のある風景」写真コンテスト2009の審査会が行われ、今年度の入賞作品が決定。本県からは2名の作品が見事入賞を果たした。同コンテストは、写真を通して、より多くの国民が身近な疏水の存在に気づき、その景観的な価値も含めて、多様な機能をさらに知って頂こうと農林水産省と全国水士里ネット、疏水ネットワークが主催して行っているもので、今年度の本県からの入賞者は次のとおり。

## 入選



「繋ぐ」六郷湧水群(秋田県美郷町)／堀松紀人



「一休み」成瀬川水系平鹿堰支流(秋田県横手市)／五十嵐清光

## 年末年始の休業について

本会の年末年始の業務は次の通りとなりますので、お知らせいたします。

- 12月28日(月)  
仕事納め(通常業務)
- 12月29日(火)～1月3日(月)  
年末年始休業  
(本部・各事務所は閉館となります)
- 1月4日(月)  
仕事始め(通常業務)

## 自然の造形



庭に積もった雪に枯れ葉が…

## 編集後記

◆冬本番、寒さが身に凍みて来ます。家に帰れば何はさておき、着替えもそこそこに熱燗で一杯という方も多いと思います(概ね50代以上)。酒の国秋田も日本酒の消費量は年々減少しているとか。秋田の冬の食べ物と言えば、ハタハタと漬物。ハタハタは夙に名の知られた食材です。漬物では、大根を燻して漬けた”いぶりがっこ”(秋田では漬物物を”がっこ”と言う。)、大根を鉋で大きめに切り、麴等で漬けた”ナタ漬け”、ナスの中に食用菊、南蛮、もち米を詰めて麴につけ込んだ”なすの花ずし”等多彩です。これに酒が加わると血圧も高くなる訳です。冬はハウレンソウ、小松菜等の野菜の糖度やビタミン類の含有率も高まりますので、忘れずに食べましょう。

◆途中から「秋田の土地改良」の編集に携わることになり、慣れぬ仕事で緊張と失敗の連続でした。試しに出展した写真が入選するという余録もありました。マンネリに陥ることなく情報を発信していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。  
(総務企画部◆堀松記)

表紙写真 美しく豊かな農村づくり写真コンクール入賞作品「冬仕度」